

—食と緑が支える豊かな「あま」をめざして—

食と緑の海部地域レポート

2026

（2025年度の取組報告）



2026年8月
海部農林水産事務所



==表紙の写真説明==

①

②

③

④

- ①金魚日本一大賞を受賞した金魚（東錦）【弥富市】
- ②ドローンを活用したれんこん栽培の省力施肥【愛西市】
- ③花育教室【弥富市】
- ④排水機場の学習会【愛西市】

食と緑の海部地域レポート 2026 目次

1	食と緑の海部地域レポート作成の趣旨	1
2	重点推進事項の取組状況	
(1)	担い手の確保育成	
	取組目標 1：新規就農者の確保	2
(2)	水田農業の維持・発展	
	取組目標 2：水田の活用割合	3
(3)	園芸産地の活性化	
	取組目標 3：産地戦略に位置付けられた生産・出荷用の機械、施設等の整備を支援	3
	取組目標 4：地産地消推進のため、新たな「いいともあいち運動」ネットワーク会員・推進店の新規加入	4
	取組目標 5：農林水産物の消費拡大・理解促進イベントの開催や支援	5
(4)	農業生産基盤の維持	
	取組目標 6：農業生産基盤の維持のための用排水施設の整備更新	7
(5)	農村の防災・減災対策の推進	
	取組目標 7：農業用排水機場の整備更新	8
3	重点的な取組の目標達成状況	10
4	「食と緑の基本計画 2025 海部地域重点推進プラン」の	
	SDGs 達成への貢献	11
5	5年間の総括	13

1 食と緑の海部地域レポート作成の趣旨

愛知県は、将来にわたる安全で良質な食料等の安定的な供給の確保とその適切な消費及び利用、農地や森林等の有する多面的機能の発揮による安全で良好な生活環境の確保を基本理念とする「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」を2004年4月に施行しました。

この条例に基づき、食と緑に関する施策の基本的な方針として、2005年に「食と緑の基本計画」を策定して以来、5年ごとに見直しを行い、第4期目の計画となる「食と緑の基本計画2025」（以下「基本計画」という。）を2020年12月に策定、公表しました。

海部農林水産事務所では、この基本計画のめざす姿の実現に向け、海部地域の特徴と課題を踏まえた具体性の高い実行計画として、海部地域重点推進プラン（以下「プラン」という。）を2021年3月に策定し、基本計画とともに地域として重点的に推進しています。

この地域レポートは、プランの進行管理の一環として、プランの重点推進事項を的確に推進するため、2025年度に実施した主な取組の内容や地域の特徴的な取組事例を取りまとめたものです。



「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例(平成十六年三月二十六日条例第三号)」

== 抜 粋 ==

第三条 食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくりは、次に掲げる事項が推進されることを基本理念として行われなければならない。

- 一 将来にわたって安全で良質な食料等の安定的な供給が確保され、かつ、その適切な消費及び利用が行われること。
- 二 将来にわたって森林等の有する多面的機能が適切かつ十分に発揮されることにより、安全で良好な県民の生活環境が確保されること。

2 重点推進事項の取組状況

(1) 担い手の確保育成

取組目標 1：新規就農者の確保



○新規就農者確保・定着に向けた支援

【取組内容】

新規就農希望者の誘致を図るため研修組織、県、農業委員会、関係市、J Aで構成する「海部地域新規就農支援協議会」を設立して、より多くの新規就農希望者を海部地域に受け入れる活動に取り組む体制を整備しました。

また、就農希望者及び新規就農者に対して、就農後の経営計画作成について助言を行うとともに、各種支援制度の有効活用について、関係機関と協力して支援しました。

更に、新規学卒・Uターン等親元就農者も含めた新規就農者の定着支援として、早期の経営安定に向けた技術・知識の習得支援を行ってきました。



【海部地域新規就農支援協議会設立総会】
(津島市)

< 新規就農者数 >

(人)

区 分	2011年度～ 2015年度	2016年度～ 2020年度	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	小 計
新規学卒	16	15	0	1	4	3	1	9
Uターン	28	29	1	2	4	2	8	17
新規参入	10	16	1	2	5	4	5	17
中高年Uターン	6	9	1	2	1	1	0	5
中高年新規参入	2	0	1	1	0	0	2	4
合 計	62	69	4	8	14	10	16	52

※中高年：45歳以上65歳未満

※各年度とも前年5月2日から当該年5月1日までの1年間に就農した人数

【今後の取組】

農業の担い手確保のために、海部地域新規就農支援協議会で就農希望者の誘致活動を管内市町村、J Aと連携して進めていきます。また、新規就農対策担当者会議等で、就農希望者や新規就農者に関する情報を共有し円滑な就農を支援します。

また、親元就農も含めた新規就農者が地域農業に定着できるよう、技術・知識の習得支援、補助事業や制度資金を計画的に活用した早期の経営安定を支援していきます。

(2) 水田農業の維持・発展

取組目標 2 : 水田の活用割合



○担い手への一層の農地集積

【取組内容】

農地集積を目的として2014年度から始まった農地中間管理事業や、市町村における人・農地プランの策定等の取組により、海部地域における2024年度末時点の農地の担い手への集積面積は3,822haとなり、9年間で1,054haの増となりました。

集積率は52.8%と県全体の集積率44%を大きく上回り、県内でも有数の先進地域となっています。



【今後の取組】

2022年度の農業経営基盤強化促進法改正により、人・農地プランが法定化されて地域計画となりました。県は、市町村が策定した地域計画の実現に向けた支援を通じて、引き続き農地の担い手への集積を進めます。

(3) 園芸産地の活性化

取組目標 3 : 産地戦略に位置付けられた生産・出荷用の機械、施設等の整備を支援



○補助事業の活用

【取組内容】

あいち型産地パワーアップ事業を活用し、「米麦」、「切花」、「れんこん」始め7品目において産地戦略に基づく農業機械の導入やハウスの新設などを支援しました。

【今後の取組】

今後もあいち型産地パワーアップ事業等の補助事業の活用を促進し、産地の生産力の強化等を図ります。



【トラクター（米麦）】（津島市）

〈あいち型産地パワーアップ事業〉

産地戦略の品目	市町村	件数	導入機械及び施設
米・麦	津島市、あま市	8	田植機、トラクター、自動操舵システム、播種機
米・麦・大豆	愛西市	1	自動運転コンバイン
いちご	愛西市	3	丸型ハウス新設、常温煙霧機、高設栽培プラント
露地野菜	愛西市	6	ミックスソー、整形ロータリー、フレールモア、手選別コンベヤ、播種機、土寄せ機
れんこん	愛西市	18	ラジコン動力噴霧器、水田除草機、スパイダーモア、水掘りポンプ、運搬車、バックホー、トラクター、グランドソー
切花	愛西市	1	TSK ハウス新設
米・麦・大豆	弥富市	8	自動操舵システム、自動運転トラクター、自動運転コンバイン、田植機、乗用管理機

取組目標 4：地産地消推進のため、新たな「いいともあいち運動」
ネットワーク会員・推進店の新規加入



○「いいともあいち運動」等による地産地消の推進

【取組内容】

「いいともあいち運動」ネットワーク会員を1会員新規登録し、2025 年度末現在の海部管内の登録者数は「いいともあいち運動」ネットワーク会員 131 会員、推進店 94 店舗となりました。

また、「いいともあいち運動」の推進・啓発のため、いいともあいち運動 SNS (Facebook、Instagram、X 等) により、ネットワーク会員、推進店及び地産地消の商品の情報を 7 回発信しました。

【今後の取組】

今後もいいともあいちネットワーク会員及び推進店の加入促進を行うとともに、いいともあいち運動 SNS による海部地域の会員や地産地消の商品、イベント等の情報の発信を行います。

取組目標 5：農林水産物の消費拡大・理解促進イベントの開催や支援



○海部地域いいともあいち地域サロンの開催

【取組内容】

「いいともあいち運動」推進の取組として2026年2月7日にJAあいち海部菜々耕房（グリーンセンター十四山店）で、「海部地域いいともあいち地域サロン」を開催しました。

来店者に「いいともあいち運動」や県産農産物に関するアンケート（112人参加）を実施し、認知度を把握するとともにリーフレット等を配布して普及啓発を行いました。



【地域サロン】（弥富市）

【今後の取組】

今後も海部地域いいともあいち地域サロンの開催等により「いいともあいち運動」を推進します。

○「海部フラワーフェア」の開催

【取組内容】

2025年5月11日に弥富市の海南こどもの国において、海部苗木花卉生産組合連合会と県の共催で「海部フラワーフェア」を開催しました。

また、子ども向けの花育教室（100人参加）も実施し、来場者は講師による花苗の寄せ植え体験をしました。



【花育教室】（弥富市）

【今後の取組】

今後も関係団体が行う活動を支援するなどして、県民に花と緑の潤いのある生活を提供するとともに、花きの消費拡大に取り組めます。

○「森林（もり）の学習」の開催

【取組内容】

森林の働きや木材の性質を知り、親しみを感ずってもらうため、管内小学校の児童を対象に、「森林（もり）の学習」を開催しました。

模型を使った水源涵養機能の実験や本県産の木を使用した工作を実施し、津島市立東小学校始め10校で延べ458人の児童が参加しました。



【森林の学習】（津島市）

【今後の取組】

森林の少ない海部地域においても、児童への森林環境教育が必要とされていることから、今後も小学校への訪問授業を実施します。

○「きになる？！木のおへや」の開催

【取組内容】

2025年11月9日に弥富市の海南こどもの国で開催された「やとみ秋まつり」において、海部木材組合と県の共同で「きになる？！木のおへや」と題したイベントを開催しました。

ミニバットの製作実演や突き板ラミネート体験等を実施し、延べ50人の県民が参加しました。



【ミニバットの製作実演】（弥富市）

【今後の取組】

都市（まち）の木造化推進法が制定され、各地で民間建築物を含めた木材利用促進のための取組が進められています。今後もイベント等において県民が木材に触れる機会を提供することで、木材利用の普及啓発に取り組めます。

○「金魚日本一大会」の開催支援

【取組内容】

2025年10月26日に弥富市の海南こどもの国において、弥富金魚漁業協同組合主催の金魚の品評会「金魚日本一大会」が開催され、立ち上げから開催に至るまで、弥富市と連携して支援しました。

当日は、盛況に開催され、来場者には普段見ることの少ない立派な金魚を間近に親しんでもらいました。



【金魚日本一大会】（弥富市）

【今後の取組】

近年は、趣味の多様化などによる需要が低迷するとともに、生産地の都市化や生産者の高齢化と後継者不足などにより、金魚の生産量は減少傾向にあるため、今後も本県の実金魚養殖業の振興を目的に、関係機関や関係団体の実施するイベントなどに連携、協力します。

○イベント出展への支援

2025 年 7 月 12 日に海南こどもの国で開催された「やとみ夏まつり」に、弥富金魚漁業協同組合が出展し、金魚飼育相談を実施しました。

2025 年 11 月 8 日に海南こどもの国で開催された「やとみ秋まつり」に、弥富金魚漁業協同組合が出展し、金魚飼育相談を実施しました。

○海部花き連フラワーウォークの支援

海部苗木花卉生産組合連合会が実施する活動を実施支援し、海部総合庁舎内県機関及び市町村の協力を得て年 5 回、約 1,300 人の参加がありました。

○畜産物の消費拡大への支援

2025 年 11 月 29 日に、「道の駅」ふれあいの里 HASU パークで開催された「即売会」に海部畜産組合連合会が出展し、J A あいち海部が販売する「愛西ポーク」の購入者に対し、地元産の鶏卵（100 パック）を配付しました。

（４）農業生産基盤の維持

取組目標 6：農業生産基盤の維持のための用排水施設の整備更新



○特定農業用管水路特別対策事業等 用水管工事

【取組内容】

津島市、愛西市、弥富市、あま市、蟹江町及び飛島村の 11 地区で、老朽化した石綿セメント管や塩化ビニル管の更新を行いました。



【石綿セメント管の撤去】(弥富市)

【今後の取組】

未改修の石綿セメント管等がまだ多く残っているため、引き続き更新を進めていきます。

石綿セメント管除去対策 進捗状況

全 体 用 水 管 延 長			2025 年度までの実施状況			2025 年度までの進捗率	
	うち石綿管	石綿管割合		うち石綿管	石綿管割合	用水管更新	石綿管除去
(km)	(km)	(%)	(km)	(km)	(%)	(%)	(%)
704.1	393.8	55.9	300.9	206.0	68.5	42.7	52.3

○地盤沈下対策事業等 排水路工事

【取組内容】

津島市、愛西市、弥富市及びあま市で地盤沈下等により排水機能が低下した排水路や老朽化した護岸等の改修を5地区で行いました。

【今後の取組】

早期完了できるよう今後も引き続き改修工事等を進めていきます。



【排水路の改修】（弥富市）

（５）農村の防災・減災対策の推進

取組目標 7：農業用排水機場の整備更新



○たん水防除事業・緊急農地防災事業

【取組内容】

愛西市の1地区で排水機場の更新工事等を行い、福原排水機場の更新が完了しました。

また、排水機場等の役割、必要性についてPR活動を行っていきます。

6か所の排水機場（愛西市、弥富市、大治町、蟹江町）において、小学生を対象にした排水機場学習会を10回開催しました。



【排水機場の整備】（愛西市）

令和7年度学習会開催実績

市 町 村	排 水 機 場 名	学 校 名
愛 西 市	勝 幡 排 水 機 場	北 河 田 小 学 校
		勝 幡 小 学 校
	立 田 排 水 機 場	立 田 北 部 小 学 校
		立 田 南 部 小 学 校
	西 川 端 排 水 機 場	開 治 小 学 校
	新 孫 宝 排 水 機 場	市 江 小 学 校
弥 富 市	新 孫 宝 排 水 機 場	十 四 山 東 部 小 学 校
	鍋 田 南 部 排 水 機 場	大 藤 小 学 校
		栄 南 小 学 校
あ ま 市	篠 田 第 2 排 水 機 場	篠 田 小 学 校

参加人数：小学校 257名参加



【排水機場での現地学習会】（愛西市）

【今後の取組】

防災・減災対策を推進するため、今後も引き続き排水機場の整備更新を進めていきます。

市町村別排水機場数一覧

市 町 村	機 場 数
津 島 市	16
愛 西 市	31
弥 富 市	12
あ ま 市	26
大 治 町	13
蟹 江 町	18
飛 島 村	4
合 計	120

※日光川河口含む

3 重点的な取組の目標達成状況

() 内は、延べ数値

重点推進事項	番号	取組目標	実績の推移					
			目標数値	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
担い手の確保育成	1	新規就農者の確保	5年間で60人	4人	8人 (12人)	14人 (26人)	10人 (36人)	16人 (52人)
水田農業の維持・発展	2	水田の活用割合	100%	105.4%	105.9%	107.7%	104.8%	103.7%
園芸産地の活性化	3	産地戦略に位置付けられた生産・出荷用の機械、施設等の整備を支援	5年間で5件	4件	23件 (27件)	41件 (68件)	46件 (114件)	45件 (159件)
	4	地産地消推進のため、新たな「いいともあいち運動」ネットワーク会員・推進店の新規加入	5年間で20会員	7会員	6会員 (13会員)	41会員 (54会員)	— (54会員)	1会員 (55会員)
	5	農林水産物の消費拡大・理解促進イベントの開催や支援	毎年5イベント	7イベント	10イベント	9イベント	10イベント	9イベント
農業生産基盤の維持	6	農業生産基盤の維持のための用排水施設の整備更新	受益面積： 5年間で2,194ha	0ha	300ha (300ha)	241ha (541ha)	22ha (563ha)	662ha (1,225ha)
農村の防災・減災対策の推進	7	農業用排水機場の整備更新	受益面積： 5年間で1,777ha	1,049ha	252ha (1,301ha)	43ha (1,344ha)	403ha (1,747ha)	30ha (1,777ha)

4 「食と緑の基本計画 2025 海部地域重点推進プラン」のSDGs達成への貢献

SDGs達成への貢献について

今、様々な場所で耳にするSDGs(持続可能な開発目標)。

自然資本や環境に立脚した食料・農林水産業・農山漁村分野は、SDGsが目指す環境・経済・社会の統合的向上において果たす役割が非常に大きく、他の分野以上にSDGsの実現に貢献することを求められます。

そこで、「食と緑の基本計画 2025 海部地域重点推進プラン」では、SDGsへの貢献を明らかにするため、重点推進事項ごとに、関連するゴールのアイコンを掲載しました。



目標2 飢餓をゼロに

目標達成に向けて、生産性の向上、気候変動等への適応、持続可能な食料生産システムを確保することとしています。

プランでは、夏季高温による品質低下に応じた高温耐性水稻新品種の導入、環境モニタリングデータを活用した施設の制御、ドローンの利用による病虫害防除作業の省力化に取り組むこととしています。

目標5 ジェンダー平等を実現しよう

目標達成に向けて、政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保するとされています。

プランでは、女性農業者の経営参画や政策・方針決定の場への登用等を促進することとし、農業・生活にかかわる基礎的知識の習得から共同経営者としての経営への参画、地域リーダーとしての地域活動への参画と、段階的な育成を図ることとしています。

目標 8 生きがいも経済成長も

若者や障害者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事等を達成することが目標とされています。

プランでは、就農間もない農業者を対象とした講座等の開催により円滑な就農に向けた支援に取り組むこととしています。

目標 9 産業と技術革新の基盤をつくろう

目標達成に向けて、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させるとされています。

プランでは、補助事業等を活用して農業機械等の導入や施設の整備等を推進し、生産・出荷基盤の強化を行うこととしています。また、農業基盤である農地の用水施設の更新にも取り組むこととしています。

目標 11 住み続けられるまちづくりを

目標達成に向けて、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靭さを目指す総合的政策及び計画を導入・実施するとされています。

プランでは、用水施設の老朽化や、地盤沈下による機能の低下を防止するため、用水施設の更新を、また、豪雨等による被害を防ぐため、排水施設の更新を行うこととしています。

目標 12 つくる責任 使う責任

目標達成に向けて、自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにするとされています。

プランでは、農林漁業を応援・体験する機会の提供や、食育を通じた健全な生活、「いいともあいち運動」による地産地消の推進などに取り組んでいます。



5 5年間の総括

基本計画 2025 の期間が終了したことから、基本計画 2030 につなげていくため、引き続き取組目標となっている項目について、5年間の成果や課題を整理しました。

(1) 新規就農者の確保

5年間で60人という目標に対して、52人という実績でした。

2016～2020年の5年間と比較すると、新規学卒やUターンは減少しましたが、新規参入は増加しています。

基本計画 2030 でも「新規就農者の確保数 5年間で60人」と同じ目標となっています。

2026年2月に設立した「海部地域新規就農支援協議会」で、関係機関や産地が一丸となり、新規参入希望者にとって魅力的なPRや情報提供が行えるかが今後の課題です。

(2) 農林水産物の消費拡大・理解促進イベントの開催や支援

5イベント／年という目標に対して、5年間で45イベント（9イベント／年）という実績でした。

関係団体が地元の農林水産物をPRするために積極的にイベントを開催し、県をはじめ関係機関がこれを支援することにより、目標を上回る数のイベントが開催できたものです。

基本計画 2030 では現行を上回る「農林水産業に関わるイベント等の開催等 毎年12回」が目標となっています。

引き続き関係団体によるイベントの開催を支援するとともに、県でも「フラワーウォーク」や「森林（もり）」の学習を開催するなど、目標の達成に努めていきます。

(3) 農業生産基盤の維持のための用排水施設の整備更新

5年間で受益面積2,194haの用排水施設を整備更新するという目標に対して、1,225haという実績でした。

用排水施設の整備更新については、地元調整などに時間が必要となったことや、近年の物価上昇に伴う工事金額の上昇などの影響により、計画どおりに進められず目標を下回る結果となりました。

基本計画 2030 では「整備する農業水利施設の受益面積 5年間で1,695ha」を目標としています。

海部地域の農業基盤の維持には農業水利施設の整備更新が必要不可欠なので、目標達成に向けて引き続き、予算確保及び関係者との調整に努めていきます。